

第1回横浜市新たな劇場整備検討委員会	
日時	2019年6月24日(月)14:30~16:30
開催場所	横浜市庁舎2階応接室
出席者 (敬称略) (10名)	明石 達生委員(東京都市大学都市生活学部教授) 新井 鷗子委員(東京藝術大学特任教授) 川本 守彦委員(横浜商工会議所副会頭) 笹井 裕子委員(ぴあ株式会社共創マーケティング室室長、ぴあ総研所長) 残間 里江子委員(出版・映像・文化イベントプロデューサー) 角南 篤委員(政策研究大学院大学学長特別補佐・客員教授) 高橋 進委員(株式会社日本総合研究所チェアマン・エメリタス) 西川 温子委員(元横浜市教育委員、元市立学校長(音楽)) 羽生 冬佳委員(立教大学観光学部観光学科教授) 本杉 省三委員(劇場計画研究者(元日本大学理工学部建築学科特任教授))
欠席者 (敬称略) (1名)	藤野 一夫委員(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)
開催形態	公開(傍聴人8名/報道12社)
議事	(1)委員長選出等 (2)新たな劇場整備の検討 (3)その他
資料	議事次第 資料1:横浜市の新たな劇場整備検討委員会条例 資料2:諮問書(写) 資料3:委員名簿 資料4:席次表 資料5:第1回横浜市新たな劇場整備検討委員会資料

## 議事内容

### 1 委員長選出等

#### 【事務局】

- ・横浜市新たな劇場整備検討委員会運営要綱第4条2項の規定により、委員長は委員の互選により定めることとなっております。委員長のご推薦がありましたら、お願いいたします。

#### 【川本委員】

- ・今回は新しい劇場の整備について検討する委員会ということですが、文化芸術の視点はもちろんです。都市経営や横浜市の経済の活性化という視点も重要だと思います。そういう意味では、日本のエコノミストとしての大変高い実績と、幅広い分野での見識をお持ちの高橋委員を委員長にご推薦したいと思います。

**【事務局】**

・ただ今、高橋委員の名前が挙がりましたが、ご異議ございませんでしょうか。

**【委員】**

(異議なし)

**【事務局】**

・それでは、異議が無いようでございますので、高橋委員に委員長をお願いしたいと思います。高橋委員は、委員長席にお移りいただき、よろしければご挨拶をお願いいたします。

**【高橋委員長】**

・推薦をいただき委員長の任を務めさせていただきます高橋です。よろしくお願ひいたします。横浜市の新たな劇場整備検討委員会の第1回委員会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。私は、エコノミストとして、経済・財政分野の分析に携わって参りました。また、安倍内閣のもとで経済財政諮問会議の議員を6年務めさせていただきましたけれども、近年の国内外の構造変化には驚くばかりでございます。とりわけテクノロジーの分野ではIT・AIを活用したイノベーションが急速に進行しています。イノベーションの進展によって国家・国境を越えた経済活動、産業構造が変化し、また、いわゆるGAFAのようなプラットフォーム企業が市場構造を変えるなど、社会全体が大きな変化に直面しております。ただし、テクノロジーが進むもとでも、私たちが失ってはならないのは、人間が持っている情緒・感性ではないでしょうか。人間の持っている情緒・感性とテクノロジーが一緒になって初めてテクノロジーと人間の共存の道が開け、私たちの社会は、真に進歩するのではないかと感じています。そして人間が感性・情緒を磨くためには教育が重要ですが、文化・芸術や伝統に接すること、あるいは文化・芸術・伝統そのものが果たす役割が非常に大きいと思います。今回の劇場整備にかかわる委員会では、横浜市の経済財政はもとより、まちづくり、それから教育に加え、感性、情緒を磨くといった観点も含め、多角的な視点から検討してまいりたいと思います。今回の検討委員会は多分野でご活躍されている方が委員に就任されていますので、皆さまが多角的視点から、自由闊達に、そして、夢のある議論をしていただくことが、より効果的で質の高い劇場の整備に繋がると考えます。委員長として、皆様に活発にご議論いただけるように注力したいと思いますので、委員の皆様もご協力をお願いいたします。以上、簡単ではございますが、委員長としての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**【事務局】**

・委員長には、委員会運営要綱第4条4項の規定に基づきまして、委員長の職務を代理する委員をご指名いただきますようお願いいたします。また、これより先は、委員会運営要綱第4条3項の規定により、委員長には議長として議事の進行をお願いしたいと思います。それでは高橋委員長、よろしくお願ひいたします。

**【高橋委員長】**

・それでは、委員長代理の指名をさせていただければと思いますが、劇場建築、文化施設運営をご専門として、昨年度まで日本大学で特任教授をされていた本杉委員にお願ひした

いと思います。本杉委員はオペラにも造詣が深いとお聞きしております。よろしくお願  
いたします。

【本杉委員】

(了解)

【高橋委員長】

- ・では、委員長代理をお受けいただきます。
- ・それでは、議事を進めていきたいと思います。ご質問、ご意見については、後ほどまとめ  
てお時間を設けます。各委員からご発言いただく場合には、挙手いただき、お近くにあり  
ますマイクを使ってご発言いただきますようお願いいたします。それでは、資料に沿っ  
て事務局から説明をお願いします。

## 2 新たな劇場の検討、その他

【事務局】(資料5の説明)

【高橋委員長】

- ・これから各委員からコメントを頂戴したいと思います。
- ・最初に、検討の進め方、1ページについて皆様からご意見、ご質問ございましたらよろし  
くお願いいたします。

【角南委員】

- ・質問なのですが、ステップが4つあって、提言のとりまとめとなりますが、最初の2つの  
ステップの後に「文化芸術創造都市のあり方」とあります。中間的にここで何か考え方を  
整理するとか、まとめるというようなことは考えていらっしゃるのでしょうか。

【事務局】

- ・今回新たな劇場を検討するにあたって、文化芸術創造都市というものをこれからどう考  
えるのかというところが、やはり議論は避けられない要素があるかと思えます。一方で、こ  
の委員会の中で、新たな文化芸術創造都市とはこういうものであるということまで提  
言をするのは少し飛び越え過ぎているかなというようなところもございまして、今回、あ  
り方というレベルぐらいで、具体的な詰めというのはまた別のテーブルでご議論させて  
いただきます。しかしながら、各委員のほうから、これからはこういうふうを考えるべき  
ではないかといったようなご指摘やご意見をいただき、それを、例えばあり方というよう  
な形で一部入れていくというような形でいかかなというふうに考えている次第です。

【高橋委員長】

- ・私から1つ質問させていただきます。市長からも持続性という言葉がありました。私は、  
ハコ物と言ったらちょっと言葉は悪いかもしれませんが、こういう施設をつくるに当た  
っては、そのハコ物をつくるコストもさることながら、運営していくコストをきちんと賄  
っていくということが重要だと思いますので、そういった観点はステップ3、この辺で議  
論させていただくということでもよろしいでしょうか。

**【事務局】**

- ・まさにステップ3、場合によっては、具体的にそれをどうするのかということについてはステップ4になるかと思いますが、ステップ3、ステップ4で、今、委員長ご指摘の点についてはご議論させていただければと思っております。

**【高橋委員長】**

- ・続きまして、「横浜市の現況」「劇場整備におけるこれまでの検討状況」についてご意見、ご質問をいただければと思います。いかがでしょうか。

**【本杉委員】**

- ・丁寧は今までの積み重ねができていますと思いますけれども、例えば7ページにある劇場法で言うところの「新しい広場」というところをもうちょっと強調してもいいのではないかなと思っています。
- ・従来、舞台芸術といった舞台で行われる公演とかは質が大事だというふうに言われてきましたけれども、一方で、ここに書かれているように多くの人々にとって、劇場は大事であるということを広く認めてもらうにはどうするか、継続的に多くの人に支援してもらい、かつ喜んでもらうためには、舞台芸術に親しんでいる人だけではなく、むしろそういうところから縁遠い人にこそ来てもらい、それについて知ってもらいたい。それに触れてもらうことにより、より劇場の価値が高まっていくと思いますので、ぜひこういう点を強調して、これもこの前にあります目標の一つとして掲げてほしいなと思っています。世界的に著名な劇場やコンサートホールでも、地域の子どもたちとか、あるいはあまり豊かでない家庭の人たちに対して、いろいろなエデュケーションプログラムといますか、日本語で言うと社会包摂的なプログラムにも積極的に取り組んでいます。横浜市の場合は、区民文化センターが確かに市民の文化活動のいろんな場所として役立っていると思いますが、やはりこちら側からの自主的、積極的な働きかけというものは大事じゃないかなと思います。文化活動をやっている人が中心になりながら、かつそうでない人たちにどうやって親んでもらうかということ是非常に重要じゃないかなというふうに思っていますので、その点を強調したいなと思います。

**【高橋委員長】**

- ・今のお話に触発されて同じ箇所でも申し上げたいと思います。「新しい広場」という言葉が記載されていますが、従来、「広場」というと物理的な空間を示していたと思いますが、最近、まちづくりということが注目される中で、物理的だけではなくて、その地域のコミュニケーションの場としての広場、空間というものが非常に注目されるようになってきていると思います。そういう空間があることによって、地域のコミュニティーの創造とか再生につながっていく、この文章、その次の行にありますけれども、地域の発展につながっていくという要素が非常に大きいと思いますので、箱をつくるということもさることながら、ぜひとも一緒に文化芸術、伝統を担えるまちの空間をつくっていくという考え方を押し出したらいかなというふうに私も思います。

**【川本委員】**

- ・都心臨海部(東神奈川、横浜駅周辺、みなとみらい、関内・関外、山下)は非常にコンパクトで羽田空港の全滑走路面積より狭いです。この中でやろうという場合、場所的な問題も出てくると思います。やはりほかの再開発やいろいろな地域なりに考えているものとの整合性というか、ある意味ではやわらかい言い方をすれば無駄を省くじゃないですが、そういったものが、今回の新劇場の検討の中にいろんな価値観が入っていると思いますので、ぜひともその辺を広い視点から考えただければと思います。
- ・同時に、こういったものをつくるとき、「費用対効果」みたいな話が一昔前にはよく出てきたのですが、例えば新劇場のもたらすものというのは、もちろんそこでやる演目、オペラを中心にした劇場でやられるものはもちろんですけども、そういったものだけ単体で考えると採算性が合わないという話はよく耳にします。
- ・では、ほかにどんなものがあるのか。子どもたちの教育、文化、横浜の将来、いい意味での豊かな青少年の育成のためにどういった、定量化、定数化できないようなものがどの程度あるか。例えが良いか分かりませんが、シドニーオペラハウスのように、価値があるというような、そういった視認的なものなのか、数量化できないもののまとめ方もぜひいろいろ考えていただければと思います。

**【高橋委員長】**

- ・事務局、よろしいですか。

**【事務局】**

- ・はい。

**【新井委員】**

- ・「横浜音祭り」のフェスティバルのディレクターをやるに当たりまして、やはりフェスティバルというのはすごくインバウンド効果が望め、日本中からだけでなく海外からもいろいろな方が訪れる大きな目的の一つになり得ると思うのですけれども、そのような取組みをする中で横浜には、フェスティバルのシンボルとなる大きな劇場がないということがまず大きな欠点だと感じております。今回の「横浜音祭り」で音楽をインフラのように行き渡らせたいということのスローガンとして大きく掲げておりますが、音楽によって高齢者の方、障害のある方、ない方、全ての方々が豊かに人生を送ることができ、そして、犯罪も減らすことができるし、音楽というのは、ある種、命を救う力すらあると思うのです。音楽祭には、その本拠地となる劇場というものがやはりすごく必要ではないかというふうに感じております。フェスティバルのシンボルとなる劇場をどういうふうに継続的に運営していくかということについても、いろいろな案が一応私の中にあるのですけれども、まずは劇場の必要性というものをここで皆さんに申し上げたいと思います。

**【西川委員】**

- ・私も、文化芸術の都市と言いながらも横浜に劇場がないことをずっと懸念しておりました。この会が発足するということで、とても期待し、委員として関わられますことをうれしく思っています。子どもの教育に関わってきた立場から申しますと、子どもの心のやわら

かい時期に、素敵な場所で、素敵な音楽などの本物の文化芸術に触れるということは、子どもたちの成長にとり、大切なことと思います。私が現場におりました時に、神戸で大きな事件がありました。そのときに、横浜ではあってほしくないという思いで知恵を絞り、市会の皆様方のご協力を得ながら一つの文化活動が発足し、現在も続いています。私は、子どもたちにとりまして、広い空間のある、素晴らしい環境の中で、ふだん聴けない、見られないような本物の芸術文化に触れるチャンスが増えることを、とても嬉しく思います。素晴らしい劇場ができることを願っています。

**【高橋委員長】**

- ・川本委員から先ほど、いわゆる費用対効果を考えるに当たっては幅広くというようなお話があったと思いますが、私も国でよくやっているB/Cを見ていますが、もちろん狭く捉えればそれだけ採算はきつくなってきます。ただ、今回拝見していますと、横浜市というのは、この劇場をつくることのいろんなところへのインパクトと申しますか、つながりを非常に考えておられるので、そのつながりを考えていくと効果もそれなりに大きくなってくると思います。その辺のところがちんと市民の方に見えるように、分析なり提示をしていくことが私は大事なかなと思いますので、この際、事務局は、そういう観点での取りまとめを出していただければと思います。

**【事務局】**

- ・効果の出し方は多々あるかと思いますが、いずれにしても多面的な効果について、定量的に出せるものもあれば、そうでないものもあり、必要性の根幹にかかわる部分であるので、ご意見を頂きながらまとめていきたいと思っております。
- ・先ほどご指摘をいただきました7ページの「文化芸術施策の考え方」は、法律の条文をそのまま記載しており、法律でここまで書いてあるものは珍しいと思います。この文章が何を意味するかということをもう少しひも解いて、そこに考え方の機軸をしっかりと置いて、検討させていただければと思います。

**【高橋委員長】**

- ・後段の「横浜市における劇場整備の検討」まで議論が及んでいますので、一旦戻させていただきます。5ページにクルーズポートのお話があります。最近、横浜に限らず、クルージングが随分増えております。横浜がこれだけ増えているのは、世界クルーズが寄港しているということだと思います。横浜に寄港して夜、乗客は何をしているのか、どのような行動パターンをしているのか気になる場所であり、分かるようであれば、教えて頂きたいです。

**【事務局】**

- ・クルーズには2種類あり、1つ目は、一時寄港というものです。中国などから朝到着して夜に出航する場合に多いのですが、中国内陸部の方で、初めて日本に来られた方などは、バスなどで東京に行き、出航までに戻る方が多いです。一方、欧米のクルーズ客の場合は、バスでどこかに行くというよりも、近隣で散策して、時間をつぶすことが多いようです。

また、もう一つの形態である、横浜発のクルーズ等の発着港として利用する場合は、羽田から入り、東京に宿泊後に横浜に移動というパターンが多く、我々としては、ぜひ横浜に宿泊して頂き、横浜で時間を費やしていただく、文化芸術等に触れていただくようになれば良いと考えています。

#### 【高橋委員長】

- ・わかりました。そうすると、ナイトタイムエコノミーといいますか、劇場で夜に上演することの意義というのは大きいと考えられますね。マチネ（昼公演）だけではないということですね。
- ・ほかに、横浜市の現況、あるいは検討状況について、ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

#### 【羽生委員】

- ・今のご質問並びに回答に関連してなんですけれども、発着に関してはご指摘の通りで、いかに拠点性を高めるかが重要だと思います。寄港の場合は一泊しないので、ナイトタイムエコノミーといっても夜にはクルーズのお客様は、いないということがほとんどではないかと思います。最大7隻寄港できるとなると、近場で一泊する場合もあれば、船に戻って食事後に出掛けるということも期待できると思います。7隻同時着岸ということと横浜に1泊し2日過ごすということが、どれぐらい可能かということは、少し港湾との兼ね合いも出てくるのかなという印象があります。
- ・もう一点は、質問ですけれども、4ページで、観光客数の推移、消費額が結構な伸びを示しているのに対し、人数を見ると横ばい、近年は減少傾向です。この統計をつくったときに、一人当たり単価が上がっている点が、何によって支えられていると分析したのか伺いたいです。
- ・それから、もう一つは、8ページ以降、大きな中核となる劇場をぜひということですが、冒頭にオペラ、バレエという単語が登場しています。実演団体が多くなく、観客が多いわけでもなく、ファン層が高齢化し、舞台芸術のなかでオペラやバレエの参加者の比率が低いのではないかという状況では、演者側も存在はあるものの、需要以上のハコを求められているのではないかと思います。新しいマーケットを作っていくということであれば、演者の育成を合わせてやっていかなければ、継続的な運営の観点では難しいのではないかという印象を持ちました。これまでの検討に加えて、各種舞台芸術の実績、関東での実績、その中に占める横浜あるいは神奈川県のア・シェア・役割が分析的に出てくると、オペラ、バレエでやっていくことの必然性や機能が明らかになってくるのではないかと考えます。

#### 【事務局】

- ・観光消費額の伸びの要因について、毎年色々な要因がございまして、一概にこれというのはございません。ただ、林市政発足後、長期計画の中で、観光 MICE の取組を成長戦略の柱に明確に位置付けて官民挙げて取り組んできた結果、H26 年度から H30 年度まででこれだけ大きく伸びてきたということです。集客人員につきましては、昨年は夏場の猛暑、台風の影響があって落ち込んだり、一昨年ですと国際園芸博があつて多くの集客が出来

ていたということもあって昨年はそれが無くなり集客人数が落ち込んだりと、毎年毎年の要因があります。

#### 【事務局】

- ・ 8 ページに記載のオペラおよび諸課題について、厳密に言うとオペラとバレエでは、マーケットの考え方も異なると思います。そのため、一緒に考えることはやや無理があるかなと思っております。舞台芸術の中でトップクラスのものは何かと考えたときに、バレエ・オペラ、伝統芸能といった分類があると思います。一方で、今のマーケットと若干先のマーケットをどう考えるのかというようなこともあるかなと思っております。日本の場合は、かなり東京文化会館にバレエ・オペラが集中し、神奈川県では県民ホールで年間二桁行くか行かないか程度の回数を上演しています。いずれにしてもそういう中で、これはまさにこれからの議論かと思えますけれども、舞台芸術というなかで、どういったことを志向していくのか、マーケットをどう考えていくのか、先ほど、運営というご指摘もございましたけれども、より議論を深めていければと思います。

#### 【笹井委員】

- ・ マーケットのお話が出たので、発言します。私のほうで、ライブエンターテインメントについて、チケットの売り上げが年間どの程度あるのか、何人くらいが見に来ているのかという推計をとっています。オペラ・バレエに関して、推移を見ても成長しているマーケットではないと思います。事務局への数値の提供は可能ですが、オペラ・バレエに限らず何をやっていくのか、何をここの舞台芸術として提供するのかというのを考えるときに、現状のマーケットだけではなく、日本全体としてということになるかもしれませんが、「どうあるべきか」、「どうしたいのか」といった視点があっても良いのではないかと感じています。

#### 【残間委員】

- ・ 精緻な検討をしており、関係者の皆さんの専門の領域なので、このままきちんと進行していくと実現可能だと思いますし、もちろん必要性も感じております。当然のことながら経済的、人材的な持続性も必要ですが、一番大切なことは、一般の人たちを「その気」にさせることだと思います。我々は、ある程度専門領域ですから、当然必要性や青少年の正しき育成ということも視野に入れていきますし、その通りですが、日本全体を考えると、主観的かもしれませんが、国民性の著しい劣化やこの先の国の行方への不安感がぬぐえない現状も考えなければいけないと思います。絶えず一般の人たちが本当に施設を必要とするのか、もちろん芸術文化は心の豊かさ、人間性の基盤ではありますが、「明日のパン、今日のご飯」が大事という人もいるわけですから、市民の皆さんが作ってほしいと思うものが望ましいと思います。そのような視点に絶えず振り戻って検討して頂きたいと思えます。そうしないと良いものを作っても、市民がこちらを向いてくれないのではないかと思えます。
- ・ それから、各国を見ていても、特に韓国で、パフォーミングアーツの学校が 10 年ぐらい前から整備されていて、この企画でもそういうようなものを附属して、附帯設備としてつ



くっていくこと、そうした学校経営みたいなものも視野に入れなければならないのではないかと思います。また、国との政治的な連携は大きな要素であり、私たちが作成する報告書も、国の関心をこちらに向け得るものにする必要があると思います。アメリカでは、経済的に困難で夏休みにどこにも行けない子どもたちを差別的にではなく、ボランティアが劇場やミュージアム等に時間がある人は1ヶ月という単位で連れて行くなど、公的な機関と上手くリンクするような体制ができています。この資料に掲げてあるものは、ほとんど完璧に近いと思いますので、人々の思いを繋げていくということを強く意識して、敢えてネガティブなことも議論し、常に反対意見も取り入れながら進めていただければと思います。横浜ということで、財政的には、色々あろうとも思いますが、実現性があると思うがゆえに、常に、反対意見をも視野に入れていくべきではないかと考えます。計画自体は、すばらしいと感じています。実現していくためにも、一般の人たちの視野・興味関心と繋げていくという方向で議論を進めていければと思います。

**【高橋委員長】**

- ・ありがとうございます。日本が内向き志向になる中で、私は横浜市発でそれを変えていくということをやっていただろうと思います。また、やるべきだと思います。それから、国との連携も非常に大事だと思います。事務局には当然その辺を踏まえて資料をつくっていただきたいと思いますが、この委員会としてもそういう方向で打ち出していけたらいいかなと思います。

**【高橋委員長】**

- ・「横浜市の現況」「劇場整備におけるこれまでの検討状況」について、ご意見をうかがってまいりましたが、すでに「横浜市における劇場整備の検討」についてもご意見をいただいております。従いまして、全体を踏まえて、さらにご意見やご質問をいただければと思いますがいかがでしょうか。

**【明石委員】**

- ・本日は、初回のため、ステップ1の「必要性」「意義」という範囲で意見したいと思います。舞台芸術の本格的な施設で、オペラやバレエをターゲットにして設定しているということで、こうしたものは、普通の規模の自治体が簡単に手出しできる施設ではなくて、横浜市のような自治体でなければできないことと思います。横浜市として、日本の都市文化をリードしていくような使命感から取り組むようなプロジェクトと考えているのではないかと感じました。最初に資料を拝見した際には、羽生委員のご指摘のように、需要が少ないといったネガティブなことが気になりましたが、需要がたくさんあるからやれば必ず成功するよという理屈ではなくて、むしろ今の日本の市民生活の文化面において不足している部分の需要を創出していくことを、日本の都市自治体の代表たる横浜市の使命と考えて、先頭に立ってやっ行ってこうということが、今ここで打ち出していくべき必要性や意義なのではないかなと感じました。
- ・もう1点、芸術フェスティバルという点が書かれていますが、施設の中での単独公演とい

うものはもちろんあると思いますが、芸術フェスティバルの場としての位置付け、どうい  
う演出になっていくのか、大きな芸術祭とか、その中のひとつの重要な場所としてつくら  
れていくことになると思いますが、全体のイベントとして、都市としての演出の仕方を突  
き詰めていくと、立地のあり方や「どういう施設であるべきか」という点が必然的に導き  
出され、説得力のあるものが出来上がるのではないかと思います。

#### 【西川委員】

- ・ 12 ページに市内の児童の様子が書かれていますが、横浜市内は、芸術文化に触れる場所  
が不足していると思います。みなとみらいホールで全小学校の一つの学年を対象として、  
10 日間程度でプロのオーケストラの本格的な演奏を聴かせる取り組みを実施しており、  
子どもたちの中に息づいています。その子どもの中から、成長して、今度は聴かせる立場  
で楽団に入って、今、演奏活動をしているということもあります。また、小学校6年生全  
てを対象にミュージカルを鑑賞させたいのですが、交代制で6割の児童しか参加できて  
いない状況もあります。今年から小学校でも、バレエも鑑賞させる取組みを関内ホールで  
始めるようですが、対象となる4年生全員は鑑賞できません。このような活動を通じ、将  
来行ってみたい、聴いてみたいという意識を醸成できるのではないかと思いますし、その  
ような感性の豊かな子どもたちを育てたいと思っています。こういったことが横浜の大  
事な宝になっていくのではないかと思います。

#### 【角南委員】

- ・ 2つありまして、1点目は、MICE による経済波及効果には何が含まれるのかということ  
です。パシフィコ横浜をはじめ、それ以外もここに挙げられている国内の国際会議場はよ  
く使いますが、パシフィコ横浜で会議をする際には、他の参加者は、東京に宿泊した後、  
横浜に来る方が多いです。パシフィコ横浜のすぐそば、たしかホテルが2つ、3つあると  
思うのですが、歩けるところで、朝から晩まで会議をやって、そこからその後の夜の時間  
をどうするか、あるいは次の会議までの時間の過ごし方ということ、やはりここで何か  
経済効果を生み出しているという考え方の数字なのか。あるいは、横浜市のほうでも MICE  
に対して、これから考えていく課題とは何なのか。京都で会議となる場合は夜のプランも  
考えますが、パシフィコ横浜の場合、夜のプランを考えることはありません。横浜市が考  
える特別の課題として、東京が近いという点はありますか。今回の視点にあるナイトライ  
フエコノミーを考えるにあたり、MICE の課題が抽出されていればお聞かせ願いたい。
- ・ もう1点は、新しい劇場から生まれる今までにないコンテンツを作っていくという視点が  
必要でないかということです。イタリアのボッコーニ大学は、イタリアにおける IT 研究、  
イノベーション研究の先端ですが、そこが新しい研究室を作って、スカラ座と連携して新  
しいコンテンツを結び付け、新しい価値を創造し、そのようなコンテンツを世界に対して  
打ち出しています。大学とスカラ座が結びつくことによって、新しい価値を創造するとい  
うことで、普段のオペラ鑑賞層とは異なる層がそのようなコンテンツを見たいと考える  
要因になっていると思います。もう少し新しいものと融合させて、新しいコンテンツを劇  
場から生み出していくようなことも強調されるといいのかなと思いました。新しい広場

というところがまさにそこになるのかなと思います。

**【高橋委員長】**

- ・MICEに関連しては事務局からお願いします。

**【事務局】**

- ・MICEについては、羽田、東京から近いため、選んでいただけていると思います。パシフィコ横浜は、オールインワン、会議場と宿泊棟が近いため、皆様に選んでいただけていると思います。市内ホテルは88%と高稼働が続いており、横浜に宿泊したくても、泊まれないという状況も多いのではないかと思います。2017年度を起点として、2023年までの間に、市内で5,800程度部屋が増えるため、宿泊の利用も増え、横浜の夜を楽しんでいただけるのではないかと思います。もう一点、横浜の国際会議の強みは、中小の医療系の会議が非常に多いということがあります。忙しい参加者が多く、あまり夜に出ないと聞いていますが、社会学会の会議ですと、街を回遊していただくことがあります。町自体の夜が早いという課題があり、行政として、また、パシフィコ横浜として開催者に各種のご案内をしています。昨年から、会議の合間に野毛のユニークベニューのご案内をするなどの取組みを順次進めているところでございます。

**【高橋委員長】**

- ・角南委員のスカラ座のITの取組は非常に面白く、このような問題意識は、事務局も持っていると思います。関連資料があれば先生から事務局に提供頂きたいです。

**【川本委員】**

- ・劇場ができたとして、オペラが21時に終わっても、食事する場所がない、渋滞の中でどのように帰るのかというインフラ上の課題も想定されます。この委員会の中で、どこまで整理するのか決めた方が良いのではないかと思います。

**【新井委員】**

- ・角南委員のお話に関連してきますが、8ページのオペラ、バレエに絞って議論すると、現在の日本における旧態依然とした公共ホールの在り方のままでは、オペラ・バレエの未来が非常に危ぶまれると思うため、新しい舞台芸術の発信地ということで劇場を捉えていくことが必要だと思います。例えば、クールジャパンの大きなコンテンツであるアニメやゲームとの融合やAIを活用したオペラやバレエ制作などがあると思います。これまでの伝統的なオペラやバレエだけでなく、新しい舞台芸術の発信地として検討することが重要だと思います。また施設単体ではなく、周辺の別の施設との連携も重要と考えます。例えば、学校など教育機関の併設は必須ですし、レストランなど飲食施設も必要です。さらに芸術と医療を結びつけることにも関心を持っており、認知症の患者に向けた楽器の開発や音楽療法に取り組んでおりますが、今後は、劇場と病院や介護施設の併設ということも考えられるのではないかと思います。

**【高橋委員長】**

- ・川本委員の指摘にもありましたが、本委員会で視野を広げてすべてを検討することはできないと思います。したがって、まさに今、新しい劇場の発信地というお話がありましたけ

れども、それを取りまく横浜市として、どういう政策を全体像として持っていて、オペラやバレエについてどうするかということについては、「このように考えている」など、横浜市からご提示いただいたうえで、私ども委員会での議論とをかみ合わせなければならぬと思います。そのあたりの整理は、事務局にお願いしたいと思います。

**【羽生委員】**

- ・今のいくつかのご指摘には、私も同意見です。観光の観点からいえば、上演時間による制約が発生します。例えば夜に出港するクルーズでは、夜に見られないという問題があります。海外から客を集めるという崇高な目標があっても良いですが、スカラ座やオペラ座は上演している中身も見たいが、近くに行って周りの町を楽しむということもあります。例えば、東京でいえば、日比谷はデベロッパーの取組により、最近では、劇場としての充実度が増してきていて、昔のオフィス街から、今日では夜にいろいろなコンテンツを提供できるようになってきています。芝居を上演していなくても、街を楽しめる、終演後も楽しめるコンテンツがあります。街で劇場がアイコンになってはいるが、演劇を見なくても楽しめるようになっていくということがポイントだと思います。
- ・立地の検討をするのであれば、コンテンツで人を呼ぶことも、もちろん重要ですが、劇場を建築として楽しむ、中の見学ツアーをやってみる、上演時以外のスペースの有効利用をどうするかということも検討する必要があると思います。高いお金を払わなくても入れる、もしくは、21世紀美術館のように、市民の利用を想定したスペースがたくさん設けられ、自由に利用されていることで、建物自体が常に活性化している状況がまた人を呼ぶといった展開も期待できるのではないかと思います。そのように多面的に施設、施設の周辺を捉えていければと思います。

**【事務局】**

- ・今回は都心臨海部という凝縮されたエリアとしましたが、ステップ2から3に動くあたりで設置場所の検討のたたき台を示して検討を進めていきたいと思っています。

**【残間委員】**

- ・みなとみらいの初期の開発に関わってきた経緯があるのですが、いつも引っ掛かる点は「東京 VS」という構造でした。「東京に持って行かれた」とか「東京に連れていかれた」とかいうことです。先ほどからあるように「リーディングシティーとしての横浜」ということで、この際、東京はさておき、横浜としてどうするかを考えるべきではないかと思えます。ナイトライフは東京にも日本全国にもありません。東京は仮想敵国になりがちですが、横浜ならではの視点で検討することが必要だと思います。

**【高橋委員長】**

- ・ご指摘の通りだと思います。インバウンドの課題は、ナイトライフのスポットが無いということだということはまさにその通りだと思います。

**【高橋委員長】**

- ・他にご意見・ご質問はございませんでしょうか。  
(質問・意見なし)

**【高橋委員長】**

- ・それでは、皆様からご意見を頂戴したと思いますので、少しまとめをさせていただければと思います。
- ・今回は、現状把握から整備の意義について資料に基づき、議論をしました。まだ不十分なところもあり、委員からのご指摘も踏まえ、事務局で資料の加筆修正などお願いいたします。また、次回に向けてですが、劇場のあり方を考えるに当たって、劇場への市民のニーズや意識、顧客の動向などをどう考えるか、また、それを取り巻く文化芸術創造都市のあり方も重要なテーマだと思います。資料冒頭のステップ1から2につながる部分です。ニーズや意識については、現段階では、情報も不十分であり、安易な定量化は誤解を招きますので、既存の文献やヒアリングを参考に、傾向などを考察してもらえれば良いと考えます。次回については、劇場のあり方とニーズなど、そして、文化芸術創造都市のあり方などを議論するということでしょうか。なお、諸外国や国内などの事例紹介なども個別の委員の先生とのご相談でまとめられるのであれば、それらも提示していただきたいと思います。
- ・以上で議事が終了いたしました。その他、全体を通じて、何かご意見・質問等ありますでしょうか。特に無いようでしたら、最後に私から2点のお願いがございます。1点目は、検討を深めるために、委員の皆様には議論の参考になるような資料があれば事務局に提供をお願いいたします。2点目は、事務局には、今回欠席の委員に説明し、可能であればご意見をいただくようお願いいたします。

**【事務局】**

- ・長時間のご審議、誠にありがとうございました。次回委員会の日程につきましては、今後調整させていただき、改めてご連絡させていただきますので、よろしくをお願いいたします。以上を持ちまして第1回委員会を終了いたします。ありがとうございました。